

平成29年度 第2回若草南小学校自己評価書

平成30年1月23日(火)作成

学校長：市川 利仁

記述者氏名：教頭 加賀美 敏

学校教育目標

「学びを深め、心豊かなたくましい子ども」

〔具体目標〕

- (1) 自ら学び、深く考える子ども (知)
- (2) 豊かな心で、思いやりのある子ども (徳)
- (3) 体をきたえ、最後までやりぬく子ども (体)

〔目指す学校像〕 **学び合い 高め合い 信頼し合う 地域と共にある学校**

〔育てたい児童像〕 **ふるさとを愛する児童の育成 < 若南プライド >**

〔若南プライド〕

地域の歴史・伝統・文化に気づき、自ら学び、体験する中で 地域に誇りを持ち、自尊心を高める積極的な活動に取り組む精神を醸成する。

〔学校経営の重点〕

1 「自ら学び 深く考える子ども」の育成を図る。

(教師集団による組織的・計画的な研究からの授業実践を展開する。)

- (1) 基礎的・基本的事項をしっかり教え、確実な定着を図る。(繰り返し学び、定着化を図る)
- (2) 学習スタンダードに基づいた授業を実践する。(若南スタンダード、やまなしスタンダードの定着化)
- (3) 体験的活動や地域教材・地域の人材活用など積極的に取り入れ授業の活性化に努める。
(体験的活動、地域教材・人材の活用)
- (4) 学習規律の確立を図る。(学習用具の準備、ノートの取り方、授業終始時の挨拶)
- (5) 家庭との連携・協力を図り、確かな学力の定着化をめざす。(宿題・自主課題の定着化、習慣化)

2 「豊かな心で 思いやりのある子ども」の育成を図る。

- (1) 共感的理解に努め、心が通い合う教育を推進する。
- (2) 自尊感情の育成を図る。(教育活動全体を通して、「自分を大切に思う心」の育成)
- (3) 学校教育全体を通して道徳教育をめざす。(考え議論する道徳 道徳教育の日常化)
- (4) より良い人間関係を築き、充実した学校生活を実現するための集団活動に取り組む。
(児童会活動、たてわり班活動の積極的な取組 自治的活動の醸成)
- (5) 読書活動・音楽活動を通して、豊かな情操・感性の育成を図る。
- (6) 豊かな人間性を育むため、充実した体験的活動に取り組む。
- (7) 礼儀正しい、規律ある学校をつくる。
 - ・場に応じた言葉使いができる。(丁寧な言葉遣い)
 - ・基本的生活習慣の徹底を図る。(あいさつ・返事・靴そろえ・イス入れなど)
- (8) 美しい環境づくりに心がける。(無言清掃(黙働清掃))

(9) 人間尊重の精神，社会生活上のルールなどの倫理観，夢や生きがい感の醸成を図る。

(忠恕の心 キャリア教育の充実)

3 「体をきたえ 最後までやりぬく子ども」の育成を図る。

(1) 教育活動全体を通して，安全・防災について実践的な指導を行い，日常の実践化を図る。

(2) 給食の時間を中心に食育の充実に努める。

(3) 粘り強く最後までやり抜く強い意志をもった心身共に健康な児童の育成を目指す。

(4) 体力向上に向けて，充実した体育の時間・遊びの時間の確保，スポーツの奨励など積極的に推進する。(運動の日常化)

4 特別支援教育(特別支援学級・通級指導教室)の充実に努める。

(1) 交流学級・在籍学級の担任，保護者・関係諸機関との連携を図り，指導の充実に努める。

(2) 一人ひとりのニーズに対応した適切な指導・教育相談に努め，また，地域における児童の教育に関するセンター的な役割が果たせるように努める。(サポートルームわかくさ)

(3) 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を作成し，その活用を図る。

5 連携・協働し，支え合う教職員組織をつくる。

(1) 全教職員の総力・創意を出し合い，連携・協働し，支え合う教職員組織をつくる。

(2) 教育公務員としての自覚を持ち，厳正な服務規律の確保に努める。

(3) 保護者や地域との連携・協力を大切にした教育活動を進める。(説明責任を意識した教育活動)

6 家庭や地域との連携の中で開かれた学校づくりを推進する。

(1) 保護者や地域住民と連携・協力した教育活動を展開する。(連携・協力体制の確立)

(2) 地域の一員としての自覚や地域を大切に思い，地域が誇れる心を醸成するための手立てとして地域の教材化と地域人材の活用，地域活動への積極的な参加を推進する。

(地域・地域人材の活用と地域行事への参加・地域貢献)

I 第2回児童アンケートの考察

1 全体的な傾向

全20の質問項目中、肯定的評価が90%以上のものが15項目、90%未満～80%以上の項目が3項目、80%未満の項目が2項目ある。前期の結果と比較すると項目によっては多少上下の動きがあるものの、全体的に肯定的評価が多く、高止まりの傾向にある。

2 ①前期と比較して良くなっている項目（+3%以上アップ）

〔項目4〕「わたしは、最近友達からいやがることを言われたり、いやがることをされたりしたことがあります。」（-5→85%）

〔項目8〕「わたしには、困った時に、相談に乗ってくれる友達があります。」（+4→92%）

②肯定的評価が95%以上の項目で前期よりも肯定的評価が増えたもの

〔項目1〕「わたしには、学校へ行くことが楽しいです。」（+1→95%）

〔項目11〕「わたしは、掃除や自分の仕事に、しっかり取り組んでいます。」（+1→97%）

〔項目17〕「先生は、勉強でわからないところをわかるように、教えてくれます」

（+1→99%）

3 課題として考えられる項目（80%未満の項目）

〔項目10〕「わたしは、自分で考えたことを、進んで発表しています。」（-7→73%）

〔項目12〕「わたしは、家族に学校での出来事について、よく話します。」（-3→79%）

〔考察と課題への取組〕

教職員に関する項目〔項目16～20〕は、すべて肯定的評価が95%以上である。これは、教職員が一人ひとりの児童を大切にされた学級・学年づくりを進めてきたことと丁寧な生活指導を行ってきた成果だと考えられる。ただ、学校生活に不適應を示す児童もいるので、これからも一人ひとりを大切にされた指導や授業を心がけていきたい。

〔項目3〕の友達に嫌がることをしたりした児童は増えているが、〔項目4〕の友達から嫌がることをされた児童は減っている。これは、〔項目8〕の困った時に、相談に乗ってくれる友達がいることと〔項目19〕や〔項目20〕の教職員の対応や指導の成果かもしれない。また、学年で見ると低学年生の方が友達関係のトラブルは多い。原因としては、まだ自己中心的な面が強いという事と友達関係の広がりによってトラブルも増えているという事だと思われる。教職員は、トラブルが起こるたびに児童に考えさせていく取組を行っている。そういった取組から円滑な人間関係が作れるようになっていくのではないかと思う。

また、〔項目12〕の家族に学校の様子を話す児童が減ったのは、1年生の評価が下がったからである。その理由は、1年生が学校生活にも慣れ、不安が少なくなり話すことが減ったのではないかと推測している。

一番の課題は、児童が進んで自分の考えを発表することにある。今まで校内研でアクティブ・ラーニングの研究に取り組んできたので、授業中自分から進んで意見を発表する児童が少しずつ増えてきていたが、今回は、どの学年も肯定的評価が下がっている。理由は良くわからないが、若南スタンダードを取り入れた学習の確実なる実施をしていかなければならない。そして児童が、主体的で対話的で深い学びができるようにしなければならない。

また、気になる点は、朝ごはんを食べない児童が少しだが増えてきていることである。（4年

生以外のすべての学年) これは保護者アンケートの結果とも関連している。原因として考えられることは、保護者の多忙化や児童の不規則な生活習慣が考えられる。「早寝・早起き・朝ごはん」は子どもの生活はもちろん学習にも影響することなので、家庭にも協力してもらって改善していきたい。また、ケータイ・スマホの保持率も前期と比較すると123人から128人に増えている一方、ルールを決めている家庭が94人から92人に減っている。ルールを決めている家庭は約72%で、約3割の家庭がルールを決めずに使わせている。昨今のケータイ・スマホに関わる問題を考えると、今年度も高学年の防犯教室で実施したケータイ・スマホの安全な使い方の学習会を毎年実施すると共に低学年生への指導は保護者が中心なので、PTAの会合等で使い方について啓発していく。

II 第2回教職員自己評価の考察

1 全体的な傾向

後期の教職員自己評価の結果も、すべての質問項目において肯定的回答が多数を占め、学校長の指導の下、学校教育目標達成のために全職員が協力して努力していることがわかる。

2 プラス評価が多かった項目 (A評価が20人以上のもの)

II 学校経営・組織について

③「教育公務員としての自覚を持ち、職務に従事している。」(A27)

III 学習指導・児童指導について

①「基礎基本の定着や意欲的に取り組むための授業づくりの工夫を図っている。」(A22・B4)

②「個に配慮した授業を行っている。」(A20・B6)

④「児童の規範意識をはぐくむための指導を行っている。」(A20・B6)

⑤「問題行動(いじめ・不登校等)の早期発見に心がけ、早期対応を行っている。」(A21・B5)

[課題・意見]

◇若南スタンダードや家庭学習のやり方など全学年でそろえている所はすばらしいと思う

◇学級力アンケートやいじめアンケートで早期発見と共に対応するきっかけができ、生徒指導に活かされている。

◇Q-Uや学級力アンケートが着実に実施され、有効的だと感じる。

◇子ども目線での取組をしていた。すばらしい。また、望ましい活動に対する賞賛や声掛けによる自己肯定感を高揚させる取組も良かった。

◇2年間の研究指定を全教職員で一丸となって取り組んだことにより学力向上のための取組はもとより個に対応する取組も同一歩調の中で意識した活動ができたように思う。

◆若南スタンダードがさらにすべてのクラスで確実に行われるとよいと思う。

IV安全管理

①「校舎内外の安全点検を計画的に実施することにより、危険箇所・修理箇所の対応ができている。」(A21・B7)

②「危機管理(防犯、防災、事件、事故等)について共通理解が図られ、計画的に訓練を行うなど、適切な対応がなされている。」(A24・B3)

③「個人情報保護・情報セキュリティの認識を常に持ち、適切な管理を行っている。」(A21・

B6)

〔課題・意見〕

- ◇公開に向け修繕をしてもらってありがたかった。
- ◇校舎内外の危険箇所・修理箇所への対応を迅速にってもらってありがたい。20年近くたつといろんなところに不具合が出てくるので、安全な教育環境のためにもよろしく願いしたい。また、子どもたちにも学校を大切にするという意識を持たせたい。
- ◇計画的な安全点検、危機管理などを意識した取組だった。
- ◆個人情報保護の面で、児童の名前が書かれているプリントなどがリサイクルに入れられていることがある。

V 保護者・地域との連携

- ①「学校開放日・部会などは、学校との連携を深めるために、有効に活用されている。」

(A22・B6)

- ②「学校・学年・学級だよりなどにより、適時必要な情報提供を行っている。」(A25・B2)

〔課題・意見〕

- ◇保護者は運動会や音楽会など我が子の発表の時だけではなく奉仕作業等PTA活動にも大変協力的だと感じている。
- ◇親子清掃や運動会の作業への協力、PTAの朝の指導など素晴らしかったと思う。
- ◇年を追うごとに保護者の学校への協力する姿勢が高まっている。

3 課題として考えられる項目（前期よりも肯定的評価が下がっているもの）

II 学校経営・組織について

- ④「職員会議は能率的・建設的に行われている。」(A11→10・B16→14・C0→3)

〔課題・意見〕

- ◇職員会議資料が事前に配付されているので短時間の会議運営ができて良い。
- ◇職員会議の内容はPDCAサイクルに沿った内容に変わりつつある。さらに短時間で有効な会議にできるよう努めていきたい。
- ◆職員会議の議題が多いうえに開始時間がおそく、駆け足でじっくり検討できない気がする。放課後の打合せ日（月・水など）を増やすことはできないか。
- ◆時間厳守。何を話し合ってもらいたいことなのか等提案の仕方などが今後の課題である。
- ◆教職員の多忙化が言われているので、諸表簿の時期の放課後の会議はなるべく別の日に設定してほしい。
- ◆小さな行事であったとしても同日に行事が重ならないようにできる限り事前に行事検討をしていただきたい。

〔考察と課題への取組〕

〔II-③〕の項目からも、全教職員が教育公務員という高い自覚を持ち職務に従事していることがわかる。

『III 学習指導・児童指導について』の①～⑤の項目はどれも肯定的評価が上がっている。このことから教職員が学習指導や生活指導に熱心に取り組んでいることがわかるが、児童アンケートでは、授業等で進んで発言する児童が減っているため、校内研で取り組んでいるアクティブ・ラーニングの研究をさらに深め、児童の学びを『深い学び・対話的な学び・主体的な学び』

にできるようにしていかなければならない。また、個別指導を必要とする児童もいるので、一人ひとりを大切にしたいきめ細かな指導を充実させると共に、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた授業に取り組んでいきたい。

『Ⅴ 保護者・地域との連携』の項目も肯定的評価が上がっている。小まめに学年だよりや学級だよりを出して、保護者に児童の様子を伝えたり、学校だよりを地域にも回覧して学校の様子を地域に広く伝えたりしている成果だと思う。教職員の意見や保護者アンケートの結果からも、学校が保護者や地域と上手に連携を図っていることがわかる。学校一斉メールは、行事の急な連絡等でかなり活用されているが、ホームページをもっと活用してもらえるように工夫していきたい。

安全管理の面では、SNSの普及に伴い、保護者に児童が写っている写真の扱いに注意を促したが、意見にあるように紙文書の処理に関しても十分気をつけていきたい。

課題は、職員会議の効率化と教職員の多忙化である。職員会議資料を事前配付するようにして効率化を進めたが、議題の精選や発表・検討項目の焦点化がまだ課題である。教職員が共通理解をすることが、職員会議の大きな目的であるので、PDCAサイクルに沿った提案をして内容を濃いものにしていきたい。

また、働き方改革で教職員の多忙化が話題になっているが、来年度は、職員会議を水曜日に設定し、15時から会議を行い、話し合いの時間を確保できるようにした。

教職員と児童がふれあえる時間を確保するために『きずなの日』〔毎月第1・3月曜日〕が設定されるが、この日を定時退勤日に設定して、教職員が自分の働き方を見直す一つのきっかけにしたいと考えている。

Ⅲ 保護者アンケートの考察

1 全体的な傾向

全20の質問項目中、肯定的評価が90%以上のものが15項目あり、残りの5項目も80%以上である。昨年度にはなかった〔項目Ⅰ-7〕の学校の教育施設・設備に関する設問が新しく加えられたが、この肯定的評価も98%と高かった。昨年度と同様に、全体的に肯定的評価が多く、保護者が概ね若草南小の教育に満足していることがうかがえる。

2 前年度と比較して良くなっている項目（+3%以上アップ）

〔項目Ⅲ-4〕「子どもの家庭学習について、指導している」（+5→86%）

〔項目Ⅲ-7〕「子どもの様子に変化があれば、すぐに先生に知らせ、相談している」（+3→87%）

3 肯定的評価が90%未満の項目

〔項目Ⅱ-2〕「子どもは、家でも地域でもきちんとあいさつをしている」（-5→86%）

〔項目Ⅱ-5〕「子どもは、学習がわかり、基礎学力が身についている」（±0→88%）

〔項目Ⅲ-5〕「子どもがゲームをする時間やテレビを見る時間やケータイの使い方などについて、ルールを決めて指導している」（-2→82%）

〔考察と課題への取組〕

昨年度と同じように、多くの児童が満足して学校生活を送っていることで、そのことが保護者アンケートの高評価にもつながっていると思われる。

具体的なアンケート項目を見ても、Ⅰの『学校経営・教育活動に関するもの』はどの項目も

肯定的評価が95%以上で高く、本校の学校経営に対して理解を示している。教職員の意見にもあるが、保護者が学校に協力的であるという事もお互いにより関係を築いている。

特に肯定的評価が伸びたものは〔項目Ⅲ-4〕の家庭学習への指導で、保護者が忙しい中でも子どもの教育に積極的に関わっていることがわかる。また、〔項目Ⅲ-7〕の子どものことですが、教職員に知らせ相談していることも、保護者が学校と連携・協力して子育てしていることの表れだと思われる。保護者が協力的であるという事は、教職員のアンケートの意見にもあるように、運動会の片づけや親子清掃のボランティア作業などにおいて多くの保護者が積極的に協力してくれた姿にも表れている。

課題としては、子どもたちの基礎的・基本的な学力を家庭と協力する中でしっかりつけることとあいさつを地域にも広げていくことである。児童アンケートでは90%の児童が地域でもあいさつをしていると回答しているが、保護者アンケートでは86%と下がっている。児童会でもあいさつ運動を年間通じて行っているが、地域とも連携を強化してあいさつ運動に取り組み、地域コミュニケーションを深めていきたい。

テレビやゲームの時間やスマホ・ケータイの使い方についてのルール決めも児童アンケートの考察で書いたように、保護者の意識を高めて協力をお願いしていきたい。

IV 今後の課題【重点目標】

①校内研究を中心にした研修の充実と授業改善

- ・一人ひとりの児童を大切にした学級・学年経営（Q-U、学級力アンケートの活用）
- ・アクティブ・ラーニングを活用した授業づくり
- ・学習スタンダードに基づいた授業実践

②家庭や地域との連携・協力の深化

- ・安全教育の更なる充実と安全管理・指導（見守りたすきの普及・拡大）
- ・ケータイ・スマホのルール作りのための学習会や啓発活動の推進
- ・PTAによる自主的な登校班の編成と朝の登校指導の継続
- ・地域と協力しての防災のしくみづくり（避難所運営の分担・マニュアル作り）
- ・家庭学習の更なる定着と推進
- ・PTAボランティア部会の拡大や人材発掘（学校サポーターを増やす）

③教職員の多忙化解消

- ・学校行事や職員会議の内容の精選。（決められた時間の中で、PDCAサイクルの活用）
- ・カリキュラム・マネジメントに基づく教育課程の見直しによる時間の有効活用
- ・教職員の業務の見直しと精選（きずなの日の定時退勤日の試行）